

第2章 施 策

施策を貫く3つの視点

新たな広島県づくりに向けては、想定を上回るペースで進む人口減少、少子化・高齢化などの課題に果敢に対応するとともに、目指す姿として掲げる「安心」「誇り」「挑戦」の実現に向けて、広島県の可能性を切り拓いていく施策横断的な視点が必要です。

このため、全ての施策を貫く3つの視点として、

(1) 先駆的に推進するDX

(2) ひろしまブランドの強化

(3) 生涯にわたる人材育成

を掲げて取り組むとともに、様々な施策を相互に関連させ、相乗効果を創出します。

1 先駆的に推進するDX

DXは、AI・デジタル技術等のテクノロジーを活用することで、日本のどこからでも世界とつながって仕事ができ、日本のどこでも教育や医療・介護・福祉など必要なサービスを利用できるなど、産業構造やビジネスモデル、働き方、暮らし方、生活スタイルそのものに变革をもたらすものであり、社会をより便利で快適に、豊かに変える可能性を秘めています。

都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化し、人口減少社会における子育て、教育、医療・介護・福祉、防災・減災、産業、まちづくりなど山積する各種課題に対してデジタル技術を徹底的に活用しながら解決を図るとともに、県民の暮らしをより便利、快適で豊かなものに変えていきます。

施策の推進に当たっては、デジタル化による利便性の実感に向け、県民の多様なニーズ等をデジタル技術の活用により可視化し、県民との対話を通じて施策に反映するなど、利用者の課題に寄り添い満足度向上につなげます。

そして、デジタル3原則(デジタルファースト、ワンスオンリー、コネクテッド・ワンストップ)を基本に、住民に身近なサービスを提供する市町などとも連携しながら、申請のオンライン化やAI・デジタル利活用を徹底的に進めるとともに、それらを推進する人材の育成を進めます。

さらに、産業施策においては、目まぐるしいスピードで進化するAIなど最新のデジタル技術やビッグデータを活用して、新たなサービスや付加価値を創出できる環境を整備し、生産性の向上や競争力の強化を促進します。

用語解説

ビッグデータ…デジタル化の更なる進展やネットワークの高度化、IoT関連機器の小型化・低コスト化等によって得られる膨大なデータ(スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報等)。

② ひろしまブランドの強化

本県の魅力的な観光地や、歴史・文化、自然、産業など、全ての分野において、「ひろしま」のブランディングを意識した取組を進めることで、県民の皆様広島に強みを再認識していただき、県民の誇りにつなげるとともに、国内外からの共感の獲得につなげます。

みんなで創るひろしまブランド

ひろしまには、活力あふれる産業やスポーツ・文化、多彩で美味しい食資産、都市と自然が近接した豊かな暮らしなど、先人たちが築き上げてきた、語り切れないほど多くの素晴らしさがあります。

こうした本県の素晴らしさを未来に継承するため、「元気、美味しい、暮らしやすい」という3つのストーリーで構成したブランドステートメント(ひろしまの見られたい姿)を掲げどころとし、ひろしまの平穏と平和を「PEACE」、元気や湧き上がるエネルギーを「ENERGY」で表現したシンボルマークを掲げながら、その価値を、県民、企業、団体、行政など広島に関わる多様な主体と共に磨き上げ、発信することで、更に評価され、ブランド価値が高まる好循環を創出していきます。

ブランドステートメント



ひろしまが誇る豊かで穏やかな風土、平和への想いと行動力は、すべての人へ、明日へ向かうエネルギーをもたらします。

ひろしまは、元気あふれるところです。
困難に直面しても、たくましく乗り越えていきます。
ひろしまの復興と活躍には、世界中の人々が注目し、勇気づけられています。
先人たちの開拓者精神は、今なお、県民に脈々と受け継がれ、多岐に渡ってつながりを創り、産業やスポーツ・文化に活気を生み出しています。

ひろしまは、美味しさの宝庫です。
海の幸にも、山の幸にも恵まれたひろしまには、まだまだ知られていない風土と歴史に育まれた豊かな食文化があります。
大地を味わう山の食。その豊穡な山々の栄養が川を伝い注がれた、海の食。
瀬戸内の穏やかな気候も、活力と至福を届けます。

ひろしまは、暮らしやすさをつくります。
ヒスイ色の穏やかな海と四季を魅せる山々。隣接する快適で開放的な都市機能。
この恵まれた環境は、人々の知を結集させ、さまざまな価値を創出します。
職・住・遊を同時に充実させることができる豊かな暮らしと多様な人々が活躍するひろしまのダイバーシティは、次の日本のかたちです。

施策マネジメント

③ 生涯にわたる人材育成

本県は、明治35年に日本で2番目の高等師範学校(現:広島大学)が設立され、「教育の西の総本山」と称されるなど、日本の教育界をリードしてきました。こうした教育を礎として、ものづくり産業における世界トップレベルの技術や企業等の集積を生かした新たな産業の創出につなげてきました。

こうした教育県としての系譜を受け継ぎ、想定を上回るペースで進む人口減少や急速に革新・普及が進むデジタル技術などの、社会経済情勢の変化により、仕事や暮らしの先行きが不透明な中においても、あらゆる分野において、的確に対応し、新たな付加価値を創造することができる、将来の広島県を支える財産である「人『財』の育成」を進め、本県の発展につなげることが必要です。

そのため、多様な文化や価値観を持つ人々と協働し、答えのない諸課題の解決に挑戦し続け、新たな価値を創造することのできるグローバルな人材の育成を目指した広島叡智学園の開校や、解のない課題に果敢にチャレンジし、粘り強く新しい時代を切り開いていく人材の育成を目指した叡啓大学の開学など、次世代を担う人材育成のための先進的な教育環境の整備を進めてきました。

引き続き、「学びの変革」を中心とする乳幼児期から社会人まで一貫した人材育成や、産業ニーズなどの経済社会システムの変化を踏まえた「学び直し」が行える多様な機会を提供することで、産業、DX、中山間地域、防災・減災、医療・介護・福祉など、あらゆる分野において必要となる人材の育成に着目した取組を進めます。

あわせて、働く意欲のある高齢者をはじめ、全ての県民がその経験や能力を生かし、活躍することができる環境整備により、一人一人が生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高めることができる広島県を実現していきます。

ひろしまビジョンを着実に推進し、成果を上げるため、全ての職員が日々の業務遂行に当たったの判断の拠りどころとして、守るべき価値観や行動指針を明文化した「広島県職員の行動理念」の徹底を図るとともに、PDCAサイクルによる適切な進行管理を行います。

また、全ての県民及び市町と連携・協働して新たな広島県づくりに取り組みます。

① 「広島県職員の行動理念」の徹底

県民の皆様とともに「目指す姿」を実現していくためには、県職員一人一人が、「県の仕事は全て県民のためにある」という原点に立ち返って判断し、現場により良い変化を起こし、最小限のコストで、より優れた成果を目指し、目標を達成しようとする意識や姿勢を持つことが大切です。

そのため、「広島県職員の行動理念」の徹底を図ります。

広島県職員の行動理念

【私たちの使命】

私たちの使命は、県民の信頼と負託をすべての出発点とし、社会を構成する様々な主体と連携しつつ、地域社会全体の価値を高め、発展させ、将来にわたって、広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと心から思える広島県を実現していくことです。

【私たちの価値観と行動指針】

○私たちは、広島県を愛し、誇りを持ちます。	○私たちは、県民のために存在します。
○私たちは、高い志と責任感を持って誠実に行動します。	○私たちは、率直かつ積極的に対話します。
○私たちは、現実を直視し、変化に対応します。	○私たちは、変革を追求し続けます。
○私たちは、成果にこだわり続けます。	

② PDCAサイクルによるマネジメント

ひろしまビジョンの各施策領域で掲げる「目指す姿」を実現していくためには、「取組の方向」を、実効性ある事業へと具体化するとともに、事業を実施する中で生じた問題点等を勘案しながら、事業を設計した時点で想定した効果が着実に発現するよう、軌道修正を加えるなど、適切な進行管理を行う必要があります。

本県では、「ひろしま未来チャレンジビジョン」策定以降、各施策領域の「取組の方向」を具体化する事業群を「ワーク」と名付け、PDCAサイクルによるマネジメントを行っています。

その中で、ワークごとに成果指標・活動指標とそれぞれの目標値を設定の上、これらを実現するための仮説を立てた上で事業計画を立案し、実施段階ではワーク単位で進捗状況を点検評価しながら、遅れや問題点があれば即事業計画を見直すとともに、より効果的な事業群となるようワーク全体の改善を図っていきます。

さらに、成果獲得の確度を上げるため、PDCAサイクルの各段階において、エビデンス（施策の有効性・妥当性に関する客観的根拠）やロジックの確からしさを十分に意識することで、より妥当な手段を選択するとともに成果をより科学的に検証する「エビデンスに基づく施策形成（EBPM）」に取り組むなど、マネジメント手法についても改善を繰り返していきます。

また、ワークの進捗による成果についての点検評価結果は、毎年度、県議会での審議や県民への公表を行い、寄せられた意見を基に改善を図っており、その内容は翌年度の「県政運営の基本方針」の検討にも反映していきます。

③ 県民及び市町等との連携・協働

ひろしまビジョンの推進に当たっては、個人・企業・団体など全ての県民の皆様と連携・協働しながら一緒に取り組んでいきます。

また、住民に身近な行政を担う市町と方向性を共有し、協力して取り組んでいくことが重要であり、市町の主体性・独自性を尊重しつつ、積極的な情報・意見交換を通じて、密接な協力関係を築き、地域の活性化を共に推進します。

さらに、県・市町が主体性・独自性を発揮するためには、今後のあるべき国と地方の役割、都道府県と市町や都道府県間の連携の在り方等について議論を深め、それに見合った権限や財源等の見直しを行うことが必要です。

そのため、近隣県や全国知事会等とも協力しながら、国と地方の役割分担の適正化に向けた議論を進めるとともに、人口減少による行政需要の変化や人材不足が深刻化することを見据え、県と県内市町の行財政体制を俯瞰し、広島県全体の行政サービスの最適化についても併せて検討していきます。

④ 施策推進に向けた行財政基盤の構築

今後の新たな広島県づくりを進めていく上で必要となる財政運営、行政運営両面での連携した基盤づくりを進めます。

財政運営

今後も様々な情勢が不透明な中においても、施策の推進と財政への影響とのバランスを取りながら、県勢発展に必要な経営資源が将来にわたり安定的に確保されている状態を目指し、施策や事業の更なる選択と集中や、行政デジタル化の加速等による経常的経費の適正化、財産の有効活用など、歳出歳入の両面にわたる取組を行うとともに、県債発行額の適切なマネジメントなどに取り組めます。

行政運営

ひろしまビジョンの目指す姿の実現に向けた行政運営においては、県民起点・現場主義・成果志向の原則のもと、行政運営の基本となる組織体制・業務執行・人材育成について、社会経済情勢の変化に対応することができる部局横断的な体制も含めた最適な組織体制の構築、県全体の行政サービスの最適化を含め人口減少社会に対応することができる業務プロセスの改革、一人一人の職員が力を発揮し成長することができる人材マネジメントの仕組みづくりなどに取り組めます。

また、コンプライアンスを重視し、県民の皆様のご信頼に応える、公平・公正で透明性のある県政を進めます。

施策領域

未来を担う人づくりと、
安心して子供を持ち
育てられる社会づくり

子供・子育て

P54

教 育

P58

心身ともに健康で、
安全・安心な生活を
送ることができる環境づくり

健 康

P62

医 療・介 護

P64

地 域 共 生 社 会

P68

防 災・減 災

P72

治 安・暮 ら しの 安 全

P76

環 境

P80

あらゆる世代が楽しみ、
地域に誇りを持つことができる
魅力づくり

観 光

P84

ス ポ ー ツ・文 化

P88

平 和

P92

多様な主体が、生き生きと
働きがいをもって
活躍できる仕事づくり

働き方改革・多様な主体の活躍 P96

産 業 イ ノ ベ ー シ ョ ン P100

農 林 水 産 業 P104

都市と自然の近接性を生かした、
適散・適集な魅力ある地域づくり

持 続 可 能 な ま ち づ くり P108

中 山 間 地 域 P112

交 流・連 携 基 盤 P116